

人工知能未来農業創造プロジェクト公開シンポジウム 『AIを利用した施設園芸・植物工場の未来へ向けて』

主催：農研機構野菜花き研究部門

開催日時 平成31年2月12日（火）13:00～17:00
開催場所 一橋大学一橋講堂（東京都千代田区一ツ橋2-1-2）
入場料 無料 定員500名：申込先着順

～プログラム～

- 13:00～13:10 挨拶
- 13:10～13:30 「栽培・労務管理の最適化を加速するオープンプラットフォームの整備」
岡田 邦彦（農研機構）
- 13:30～13:50 「高精度生体情報とAIを活用した栽培・労務管理の最適化技術の開発」
高山 弘太郎（愛媛大学）
- 13:50～14:20 「次世代施設園芸拠点へのAIプロジェクトの展開」
小田篤・東出 忠桐（農研機構）
- 14:20～14:50 「AIとWAGRIによるトマト収穫・出荷量モニタリングとデータ利用」
深津 時広・内藤 裕貴（農研機構）
- 14:50～15:00 休憩
- 15:00～15:30 「宮城県大規模生産ハウスにおけるAI活用のための取り組みと展望」
岩崎 泰永（農研機構）
- 15:30～16:00 「AIを活用したきめ細やかな栽培環境を目指して」
石井 雅久（農研機構）
- 16:00～16:30 「植物生体情報計測と情報基盤PLANT DATA活用のすゝめ」
北川 寛人（PLANT DATA）
- 16:30～17:00 「農業生産高度化に向けた植物生体情報活用（AI）に関する
最新取り組み状況」

西原 立（PwCあらた有限責任監査法人）

近年、高度な複合環境制御を利用した大規模な太陽光型植物工場が年々増加し、これらは今後、トマトなどの果菜類生産の中核となることが期待される。太陽光型植物工場では高品質、多収量、安定生産が望まれるが、実際には、温湿度、日射量、CO₂濃度等の外部環境の変動により影響を受ける。さらに、これらの施設では多数の雇用労働力により生産が支えられており、効率的な経営のためには、栽培作業の平準化、省力化が望まれる。農林水産省の人工知能未来農業創造プロジェクトの研究課題「AIを活用した栽培・労務管理の最適化技術の開発」では、大規模施設園芸の安定かつ高収益な生産が可能な栽培・労務管理技術の開発を目指している。本公開シンポジウムでは、本事業を実施している農研機構コンソーシアムの研究の取組を中心に、愛媛大学コンソーシアムの研究もあわせて紹介する。

申し込み（先着順）

2月8日までに、事務局宛にメールを送付し、お申し込みください。
件名を「シンポジウム参加申し込み」とし、本文に参加者全員の氏名、所属をご記入下さい。
定員(500名)内で参加可能な場合、返信などの連絡はいたしません。

申し込み・問い合わせ先

農研機構 野菜花き研究部門内 人口知能プロ公開シンポジウム事務局
AI-pro_PC-S@mi.affrc.go.jp